

令和元年度全国学力・学習状況調査 (H31.4.18)

- 1 全国学力・学習状況調査の実施状況について
 - (1) 調査の目的
 - ア 義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
 - イ 学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。
 - ウ そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。
 - (2) 調査の対象
小学校第6学年、特別支援学校小学部第6学年
中学校第3学年、中等教育学校第3学年、特別支援学校中学部第3学年の全児童生徒
 - (3) 調査内容
 - 教科に関する調査（小学校は国語及び算数、中学校は国語、数学及び英語）
 - ・「知識」と「活用」を一体的に問う問題
 - ・国語及び算数・数学においては、記述式の問題を一定割合で導入
 - ・英語においては、「聞くこと」、「読むこと」、「話すこと」、「書くこと」に関する問題

※「話すこと」に関しては機器の不具合が生じ、調査が行えなかったことから今回の結果項目からは除外しています。
 - 生活習慣や学習環境等に関する質問紙調査
 - ・児童生徒に対する調査
 - ・学校に対する調査
- 2 伊方町における調査結果の公表について
 - (1) 公表の趣旨
学力や学習状況の調査結果について、学校・家庭・地域のみんながその情報を共有し、学力向上のためにどうしていけばよいかを検討して指導改善等に取り組んでいく。
 - (2) 留意事項
 - ア 「9年間の学びを見通した教育の創造」の町統一テーマの下、小学校・中学校の連携による取組を重視する。
各中学校区ごとの地域を一体的にとらえて取り組む。
 - イ 教科に関する調査や児童生徒質問紙調査は、レーダーチャート等で表示し、実態把握や分析、改善策を検討していく。
 - ウ 点数等の数値表示、一覧表の作成、順位づけはしない。

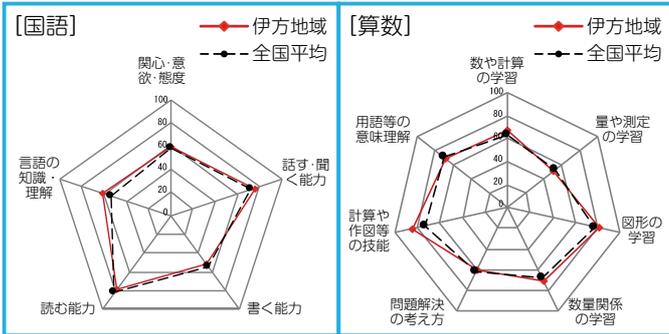
なお、令和2年度からは今の公表の在り方を見直していくこととしています。

令和元年度全国学力・学習状況調査における調査結果 【伊方地域】

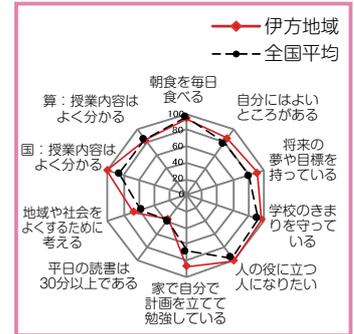
○教科に関する調査（全国の平均正答率との比較）

○児童生徒質問紙調査
（全国の平均回答率との比較：肯定的回答）

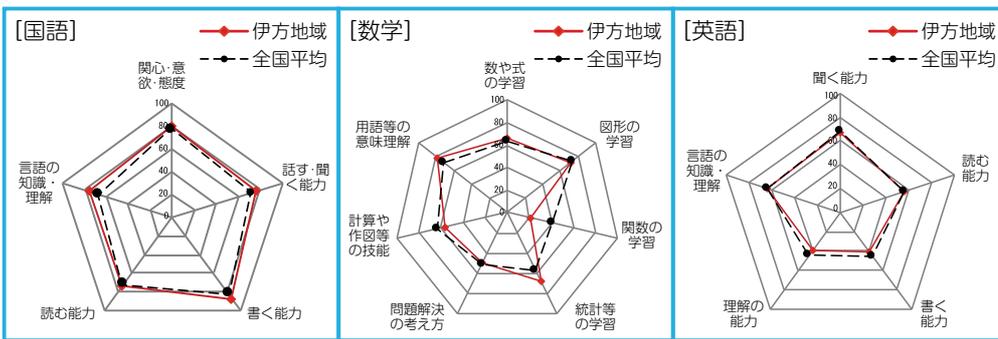
<小学校>



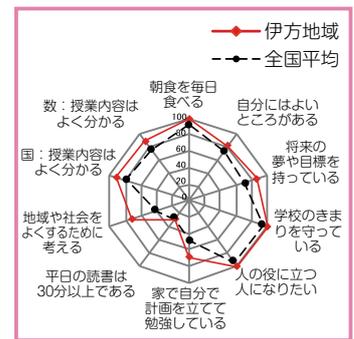
<小学校>



<中学校>



<中学校>



結果の分析

《小学校》

- 国語、算数ともに、平均正答率が全国平均とほぼ同じである。項目別に見ると国語では、前回課題であった「話す・聞く能力」が、全国平均を上回り、改善が見られる。「書く能力」「読む能力」は、全国平均をやや下回っている。算数では、「計算や作図等の技能」は全国平均を上回っているが、数学的に処理する力や筋道を立てて考える力に課題が見られる。
- 児童生徒質問紙調査では、ほとんどの項目で全国平均を上回っている。特に「学校のきまりを守っている」「人の役に立ちたい」の項目は、前回に引き続き高い。自己肯定感や地域・社会の問題等への関心の項目は、前回に比べ改善が見られた。しかし、1日の読書時間は、前回に比べて改善の傾向にあるが全国平均を下回っている。

《中学校》

- 国語、数学、英語ともにほとんどの項目で、全国平均を上回っている。特に、国語の「話す・聞く」の項目と数学の「統計等の学習」の項目は、よい傾向にある。数学の「関数の学習」と英語の「書くこと」に課題が見られる。
- 児童生徒質問紙調査では、全国平均を全体的に上回っている。特に「自分にはよいところがある」や「将来の夢や目標を持っている」や「地域や社会をよくするために考える」などの項目がよく自己肯定感が高く、昨年と比べて向上が見られる。

改善方針

《小学校》

- 国語では、文章を読む力と条件に沿って書く力を伸ばす指導を工夫する。
- 算数では、個別指導を重視し基礎・基本の定着を図る。また、知識を活用したり数学的に処理したりする力を伸ばすための指導の工夫に努める。

《中学校》

- 数学の基礎・基本的な力を伸ばし、活用能力の向上に努める。
- 英語の書く能力を高めるための指導の工夫に努める。

《小中共通》

- 学習習慣の定着を図るとともに、個々の学力の伸長に努める。
- 学校や家庭において読書の時間の確保に努め、読書の習慣が身に付くようにする。

具体的な取組

《小学校》

- 国語では、文章問題を解く機会を増やし、繰り返し指導する。条件に沿って書く場面を設定する。
- 算数では、図や式、言葉を使って考えを書き、説明する学習活動を積極的に取り入れる。

《中学校》

- 数学では、速く正確な計算力を身に付けるために、練習問題を繰り返し行う。
- 英語では、書く力を身に付けるために、時間を確保し応用問題を行う。

《小中共通》

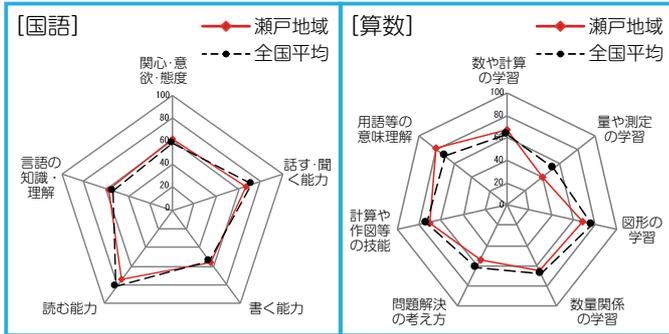
- 個の力を伸ばすために、個別指導や補充学習の内容を工夫する。
- 様々な読書活動を工夫し、読書への関心を高める。学校での読書時間をこれまで以上に増やし、家庭と合わせて平日30分以上の読書時間を確保することで、読書の習慣を定着させる。

令和元年度全国学力・学習状況調査における調査結果 【瀬戸地域】

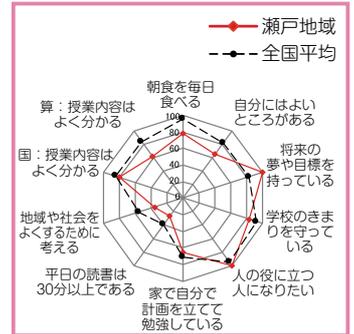
○教科に関する調査（全国の平均正答率との比較）

○児童生徒質問紙調査
（全国の平均回答率との比較：肯定的な回答）

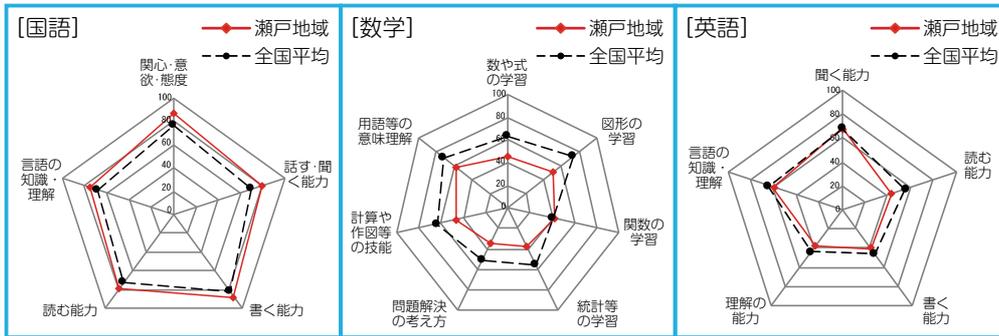
<小学校>



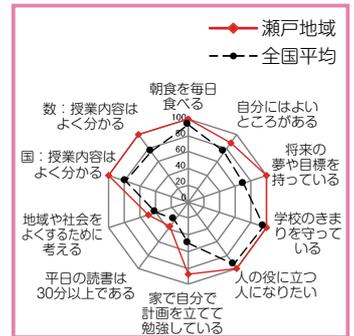
<小学校>



<中学校>



<中学校>



結果の分析

《小学校》

- 国語の「関心・意欲・態度」「書く能力」「言語の知識・理解」は、昨年に引き続き全国平均を上回っている。「読む能力」「話す・聞く能力」は、やや下回っている。
- 算数の「用語等の意味理解」「数や計算の学習」以外は、全国平均を下回っており、特に「量や測定の学習」については課題がある。
- 児童生徒質問紙調査では、ほとんどの項目で全国平均を下回っている。

《中学校》

- 国語は、各項目で全国平均を上回っており、関心・意欲も高い。
- 数学は、「関数の学習」以外が全国平均を下回っている。
- 英語は、各項目で全国平均とほぼ同じである。まとまった英文を読んで、自分の考えや感想を書くことが難しい。
- 児童生徒質問紙調査では、どの項目も全国平均を上回っている。読書時間は、昨年度よりは若干増えているが、依然低い結果である。

《小中共通》

- 児童生徒質問紙調査では、「将来の夢や目標を持っている」「人の役に立つ人になりたい」の項目は、100%である。平日の読書の時間が少ない。

改善方針

《小学校》

- 国語だけでなく、他教科や日常の活動の中で、主体的・対話的な学び力を育て、「話す・聞く能力」を高めていく。
- 算数では、知識・理解の定着や技能の習熟を図る。分かる授業を展開するための工夫をする。

《中学校》

- 国語は、「書く能力」がやや低めであるため、効果的な表現を使用する力を伸ばす取組をする。
- 数学は、基礎・基本の定着をより一層図る。
- 英語は、文章を読み取るための語彙や文の構造等の知識を深めることができるように基礎・基本の学習を定着させる。

《小中共通》

- 読書量を増やすための時間の使い方や読書の必要性について考えさせたり、楽しさを味わわせたりする。

具体的な取組

《小学校》

- ねらいを明確にし、自分の考えを持って話し合う場を設定し、対話的な授業の実践に努める。
- 算数では、基礎的なドリル学習や個別指導を繰り返すことにより、基礎・基本の力の定着を図るとともに、図やグラフなどをもとに自分の考えを説明する場を設定する。
- 補充学習の時間を確保したり、ICTを効果的に活用したりして、個に応じた指導を行う。
- 学校行事や日々の活動において、体験的な学習を多く取り入れ、成就感・達成感を味わわせ、自己肯定感を高める。

《中学校》

- 国語は、授業のまとめや自分の意見などを分かりやすく文にまとめる活動を取り入れる。
- 数学は、小テストなど復習の時間を確保し、基礎・基本の定着を図る。
- 英語は、授業の始めに小テストを実施し、基礎・基本の定着を図る。自分の考えなどを話す即興的な活動を取り入れる。

《小中共通》

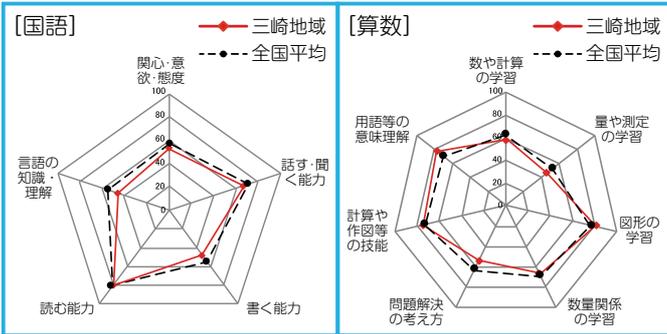
- 家庭だけでなく、学校での読書の時間を増やしたり、読み聞かせをしたりして読書に親しませ、日々の読書の記録を継続する。

令和元年度全国学力・学習状況調査における調査結果 【三崎地域】

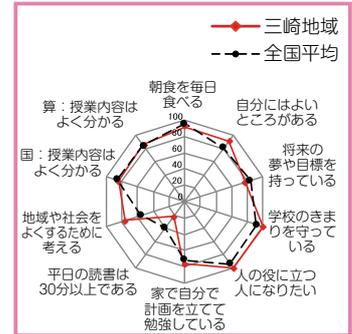
○教科に関する調査（全国の平均正答率との比較）

○児童生徒質問紙調査
（全国の平均回答率との比較：肯定的な回答）

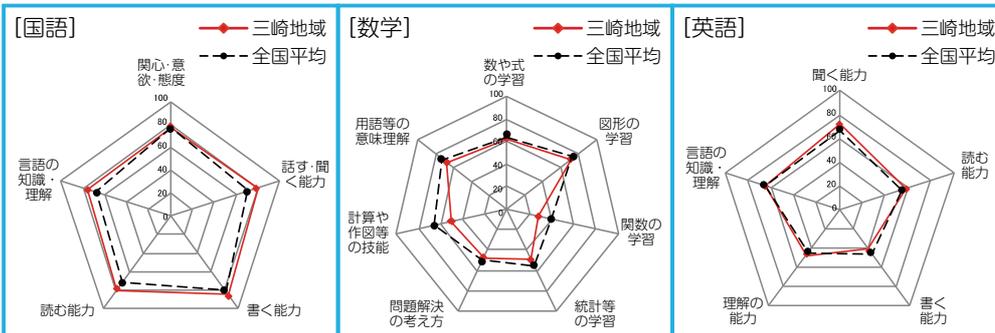
<小学校>



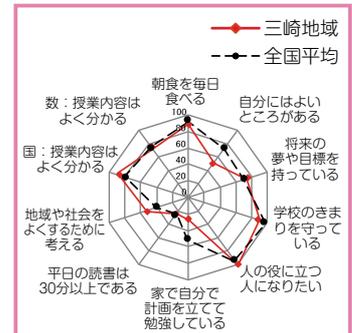
<小学校>



<中学校>



<中学校>



結果の分析

《小学校》

- 国語は全項目において全国平均を下回っている。特に「書くこと」「言語に対する知識・理解」の項目が低い。
- 算数も全国平均を下回っている項目が多い。中でも「量と測定」「数学的な考え方」に関する項目が低い。
- 児童生徒質問紙調査は、全国平均と同じくらいか上回っている項目が多かった。「読書の時間」の項目に課題がある。

《中学校》

- 国語は、全項目において全国平均を上回っている。
- 数学は、全ての項目において全国平均を下回っている。中でも、「関数の学習」が課題である。「簡単な連立方程式を解く問題」や図形領域の「結論が成り立つための前提を考え、新たな事柄を見出し、説明する問題」は、全国平均を上回っている。
- 英語は、「書くこと」以外は全て全国平均を上回っている。
- 児童生徒質問紙調査では、「人の役に立つ人になりたい」の項目で、全国を上回っているが、「自分にはよいところがある」「家で自分で計画を立てて勉強している」は全国平均を下回っている。平日の読書量が少ない。

改善方針

《小学校》

- 国語では、基礎・基本の定着と、「書くこと」への指導の充実を図る。
- 算数では、基礎・基本の定着と、思考力を伸ばす指導に努める。

《中学校》

- 数学の基礎・基本の定着を図る。
- 家庭学習への意欲を高め、自分で計画を立てて学習する習慣を身に付けさせる。
- 「自分にはよいところがある」の向上に向けて、各行事や道徳の授業を充実させる。

《小中共通》

- 基礎・基本の定着については個人差も見られるため、個別指導の充実を努める。
- 読書への興味・関心を高め、児童・生徒の読書量を増やす。

具体的な取組

《小学校》

- 授業の終末で、学習の振り返りをし、基礎的事項の定着度を確認するとともに、補充学習の充実を図る。
- 思考力や表現力の育成をめざし、授業や集会等において自分の考えを話したり、書いたりする活動を多く取り入れる。

《中学校》

- 数学では、小テストの実施や家庭学習プリントの活用で、基礎・基本の定着を図る。
- 自分たちの思いを生かした学校行事や集会活動、地域との交流を通して、成就感や達成感を味わわせ、自己肯定感を高める。

《小中共通》

- 放課後の補充学習で個別指導の時間を設定し、指導の充実を図る。
- 小中同時期に「生活リズムチェック表」を活用し、家庭との連携を通して、読書の習慣化を図る。